

全国安全週間期間中に安全指導を実施

今年も7月1日からの「全国安全週間」を迎え、「危険見つけてみんな改善 意識高めて安全職場」をスローガンに、会員企業が労働災害の防止活動に取り組みました。

林土連では、菊池専務理事が期間中の3日に山形県の会員企業を対象に安全指導を実施しました。指導には秋田林業土木協会の堀川隆志会長、須藤文雄常務理事、志田賢一監事も加わり一緒に指導をしていただきました。

新庄市の寿建設（株）（山田健二社長）では、会議室に現場代理人等の皆さんに集まっていただき、林土連会員企業に特徴的な4大事故である「斜面からの墜落・転落事故」、「重機の転落事故」、「工事現場の土砂崩落事故」、「立木伐採時の事故」の発生原因とその防止について理解を深めていただきました。

また、最上郡戸沢村の秋保建設（株）（秋保明社長）では、銅山川地区地すべり防止工事の現場において、同社の丹牧男工事課長から工事の概要や労働安全への取り組みについて説明を受けた後、現場代理人の斉藤俊明工事主任を交えて想定されるリスクや作業での危険因子などについて意見交換をしました。

なお、最近、会員企業に発生した重大災害には下請企業が多いことにも触れ、元請企業として下請企業の労働安全指導にも力を入れていただくよう要請をいたしました。



寿建設（株）での指導



秋保建設（株）現場での指導